

◆園の運営及び園務の遂行

- 保育目標や方針については日々の保育を通して説明することが有効。保護者の視点に立ってわかりやすい表現にすることも大切。
- 教育目標や方針の保護者への説明についての項目の評価が高いのは教育目標が簡単なキーワードでわかりやすいこと、目標を教育課程にわかりやすく下ろしているためだろう。何より、保護者が実際に目標に添った姿に子どもたちが育っていることを強く感じているのだと思う。
- 教育目標達成のため園内の共通理解が十分図られ、自分の心と体を大切にする子どもの育成に努めている。それを保護者に伝える工夫がなされ協力をもらえる関係が構築されている。
- ばばあず、ママあずなど有志の活動の親しみやすい名称は良い。保護者との共同が年々進んできている。
- この教育課程が適切か、また子どもたちの評価方法を、今後吟味していくことが必要。
- 保護者への学校評価の報告書の配布など、保護者とコミュニケーションをとる努力をしていることは評価される。特に、園で行っていることの意味・意図を説明している点は良い。

◆本園の保育

- 研究主題が子どもの姿と密接していて具体的な姿を通して子どもたちの「対話的な学び」を捉えることで質の高い保育を実践していることがわかる。行事の見直しなどについて子どもたちとの話し合いの中に主体的・対話的で深い学びがすすめられるように取り組んできたことは、子どもたちや保護者の主体性を発揮することにつながっていると感じた。
- ルールは大人がなるべく与えず自分たちで考えさせたいということだが、生活の中でたつぷりと子どもたち同士の話し合いに時間をかけることができるのが幼稚園のいいところだと思う。ルール(道徳・規範意識)は、子どもより先にあると、教師が指導や監視をしなくてはいけなくなる。附属幼稚園は教育要領に基づいて、幼稚園の段階で規範意識を深めている。これを小学校に生かしていけばいい。
- 遊具作成を保護者、地域の方々と連携して進めていることは素晴らしい。地域との連携は今後の学校運営には欠かせない。作業を一緒にすると園に対しての愛着がわくと思う。

◆子育て支援

- おしゃべり広場などの機会を設定し、担任以外と話ができることは保護者の安心材料になる。
- 多くの公開講座や PTA 活動としての講習会やボランティア活動も子育てに関する保護者の悩みを解消したり、子育てを味わったりする気持ちのゆとりを耐えるきっかけ作りとなっているようだ。
- 5歳児は3・4歳児に比べて評価が低い。その現状をどうとらえていくかが改善の鍵となると思う。
- 園が一方向的に支援するのではなく、保護者とともに取り組むことが大切。保護者が受け身にならないように保護者の関心事を把握して講座を設けたり、リクレーションを行ったりすることも有意義。

◆国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命の達成

- 社会的使命の項目が高いのは、保護者も、子どもの成長に公開研究会や大学との連携が欠かせないと感じているからだと思う。
- 年2回の公開研究会を開催し、常に先進的な研究を進めていることは社会的使命を果たしている。このような機会をさらに幼児教育関係者以外の地域へ周知し、広めていくことも大切。
- 研究調査は一般の方にはわかりにくいので、成果を分かりやすく保護者に伝えるとともに、保育実践にどのように生かせるかを説明するとよい。
- 研究を進めていくことは大切だが研究センターになり、園としての輪が乱れたり、子ども中心でない方向へ学校運営が進んだりしないようにしていくべき。社会的使命の達成と名を打つと難しいことに挑戦しなければと考えてしまいがちだが、研究が子どもたちのために、無理なく進められている姿に感動した。
- 大学と連携するにあたっては、園の教育方針などを十分に理解してもらうことが必要。
- 2年間にわたり、附属幼稚園で教育実習を経験できることは、大学生にとっても幼児教育の根本を学ぶ充実した実習になると思う。教員養成に附属幼稚園の果たす役割は重要。

1. 学校評価アンケートのまとめ

期日:平成 29 年 12 月 7 日～14 日	保護者数全体 139 (3 歳児:28、4 歳児:56、5 歳児:55)	教職員数 13	100%回収
A : よく当てはまる B : だいたい当てはまる C : あまり当てはまらない D : 当てはまらない			

(1) 保護者アンケート

◆園の運営及び園務の遂行

	A	B	C	D	無回答
園は教育目標や方針をわかりやすく説明していますか。	130(94%)	9(6%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園内の安全や整備は十分ですか。	88(63%)	46(33%)	2(1%)	0(0%)	3(3%)
園の遊具・用具・図書などの整備は十分ですか。	94(68%)	38(27%)	5(4%)	0(0%)	2(1%)
園は事故や訓練など緊急事態発生時の対応を適切に行っていますか。	133(95%)	4(3%)	1(1%)	0(0%)	1(1%)
保護者の方は、PTA活動に参加しやすいですか。	65(47%)	58(42%)	14(10%)	2(1%)	0(0%)

- 教育目標や方針の説明については、ふれあいの日、保護者会、お便り、HPなど機会があるごとに分かりやすく話をしてもらっていると高評価だった。特に、行事や具体的な子どもの姿を通して理解できるという意見も多く、教育目標に添った保育を行っているという理解を得ている。
- 施設・設備に関しては、老朽化についての指摘はあるものの、毎年少しずつ改修していることについては認められている。通路の屋根が一部作られたられたこと、フェンスに目隠しがついたことへの評価は高かった。
- 図書に関しては、「充実している」と高評価だが、「子どもたちだけで利用できるシステムがあると良い」という要望がいくつかあった。
- 遊具や教材は、「恵まれている」「十分とは言えないがそれを補う工夫がある」「美術科との連携で取り入れた教材が楽しかったようだ」との意見があった。すのこや瓶箱への安全性への心配などが挙げられていた。総合遊具「夢の城」の老朽化に伴い園庭の遊具の見直しについての期待が高い。
- 避難訓練は様々な状況を考えて頻繁に行っていることについて高評価だった。7:00の時点で警報が出た日は休園ということは決まりとしてあるが、「安心のため一斉配信してほしい」「一斉配信をしないならそれを貫いてほしい」という両方の意見が合った。
- PTA活動は、少しではあるが、昨年より評価が高くなっている。「楽しく活動できている」「参加しやすい」という意見も多かったが「下の子がいる、仕事をしていると参加しにくい」などの意見もあった。保護者により活動に対しての温度差がある。また、「お互い様なのでできる人ががんばれば良い」という寛容さを示す保護者と平等さを求める保護者の両方がいる。「実際に参加してみると思ったよりやりやすいが、大変だ」という噂が先行している「役員を決める際に、もう少し詳しく仕事内容がわかると良い」という意見もあり、園側からの説明が足りない部分があるのかもしれない。

◆本園の保育

	A	B	C	D	無回答
園は園児が主体的に行動できるような環境を構成していますか。	131(94%)	8(6%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
教職員は教育課題(友達のかかわり・生活習慣・規範意識)について意識して援助や指導を行っていますか。	125(90%)	14(10%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
教職員は幼児一人一人を理解し、その子にふさわしい援助や指導を行っていますか。	120(86%)	18(13%)	0(0%)	0(0%)	1(1%)
教職員は「うごく」子どもを育む保育をしていますか。	127(91%)	11(8%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)
教職員は「かんじる」子どもを育む保育をしていますか。	127(91%)	11(8%)	0(0%)	0(0%)	1(1%)
教職員は「かながえる」子どもを育む保育をしていますか。	125(90%)	14(10%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は幼児の保健に関して家庭や医療機関と連携ができていますか。	116(83%)	22(16%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)
園は日常の健康観察や疾病予防の取り組み・健康診断に関して適切に実施していますか。	122(88%)	17(12%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は園便り・学級便り・保護者会・ホームページ・降園時の連絡などで、園の様子をわかりやすく伝えていきますか。	122(87%)	16(12%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)

- 「先生が幼児一人一人を大切に、よく見て理解してくれている」「主体性を重視してもらっている」「丁寧に対応してもらっている」など、毎年高評価をもらっているが、今年は“対話的な学び”という研究テーマが理解してもらいやすかったこともあり、より評価が高かった。しかし「園児数に対して教員数が少なく一人一人

に対する援助が薄いのではないか」「おとなしい子たちに対する“対話的な学び”の指導ができていないか」という意見もあった。

- 子どもたちの成長を教育目標「うごく」「かんじる」「かんがえる」を視点として見てもらっている項目でも、今年度は昨年度より評価が高かった。
- 保健に関して、「けがをしたときに丁寧に見てもらっている」「アレルギー対応をよくしてもらっていて安心」などの点で高評価であったことに加え、健康診断、手洗い指導、性教育、保健便りへの評価も高かった。歯磨き指導、毎回の身体測定での身長と体重両方の計測、疾病の際の車でのお迎えに対する要望なども見られた。
- ホームページやお便り、連絡については「園での様子がよくわかる」との意見が多かった。また、写真をお便りに使ったり、掲示したりして理解を促しているが「わかりやすくてよい」という意見と「防犯上心配」という両方の意見があった。

◆子育て支援

	A	B	C	D	無回答
園は公開講座・おしゃべり広場・保育参加などを通して子育てに関する相談や支援を行っていますか。	110(80%)	27(19%)	2(1%)	0(0%)	0(0%)
園は保護者から寄せられた意見・要望の対応や、子育てに関する相談や支援を行っていますか。	107(77%)	27(20%)	3(2%)	0(0%)	2(1%)

- おしゃべり広場、保育参加、講演会、スクールカウンセラーとの相談・個人面談など、どれも評価が高かった。しかし、個別にみると、「年長のおしゃべり広場は午後なので小学生がいる過程は参加しづらい」「下の子を連れての保育参加ができないのは残念」「講演会は下の子がいても大丈夫という案内をもっとすれば参加者が増えるのではないか」「子育て支援は十分行われている。逆に回数が多く負担」等の意見もあった。

◆国立大学教員養成系学部附属学校園としての社会的使命の達成

	A	B	C	D	無回答
園は国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命(教育実習・公開研究会等)をもっていますが、有益な使命を果たしていると思いますか。	116(83%)	22(16%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)
大学と連携することが幼稚園の運営や保育に生かされていると思いますか	122(88%)	15(11%)	2(1%)	0(0%)	0(0%)

- 「有益な使命を果たしているし、そこに協力できることをうれしく感じる」など、本園の社会的使命に対して、理解してくれている保護者が多く、協力的である。また、「もっと新しいことへのチャレンジがあってもよい」「情報が地域や一般社会に届いているかと考えるともう少し工夫が必要」「もっと保護者も巻き込んで一緒に研究する取り組みを」など、さらなる努力を求める声もいただいた。
- 大学との連携に関しても、「様々な専門分野の先生方から支援してもらえるのは附属ならではの」など、連携をしている良さを感じている保護者が多かった。また、調査研究の協力をした後にわかりやすくフィードバックをしてくれたことを「よかった」と評価する声もあり、きちんと保護者に返していくことの大切さが感じられた。さらなる、連携を望む声も多かった。

(2) 教職員アンケート

◆園の運営及び園務の遂行

	A	B	C	D	無回答
園では教育目標達成に向けた管理職のリーダーシップに職員が信頼をもって取り組んでいますか	13(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は教務・研究・教育実習等の公務分掌が適切に機能するように組織し運営していますか	13(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は各教員の資質向上のための研修に組織的に取り組んでいますか	10(77%)	3(23%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は教育目標や方針をわかりやすく説明していますか。	12(92%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園内の安全や整備は十分ですか。	9(69%)	4(31%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園の遊具・用具・図書などの整備は十分ですか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は事故や訓練など緊急事態発生時の対応を適切に行っていますか。	10(77%)	3(23%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は安全点検や安全対応能力の向上に関する取り組みを十分行っていますか	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
保護者の方は、PTA活動に参加しやすいですか。	7(53%)	5(39%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)

- 園の運営については、「目的、目標などがわかりやすく示されている」「管理職が密にその他職員とコミュニケーションをとってくれ、信頼できる」など高評価だった。主幹教諭の配置を望む声もあった。
- 研修については、今年度から保育補助の先生を副担任と位置付けたことで、担任が他園の研究会に参加しやすい雰囲気になったことがよい評価だった。「副担任と研究内容を共有できる時間がほしい」「研究主任の負担が

大きいのでは」という声もあった。

- 施設や整備に関して、「努力はしているものの、十分とは言えない」「特に戸外の遊具に関して工学部と連携研究をしているが、きちんと考え見直したい」「リスクとハザードに関してきちんと見ていきたい」などがあげられていた。施設の老朽化の中でできる範囲で努力していきたいという前向きな回答が多かった。
- 安全面については、Jアラートへの対応において、施設が頑丈でないことから「十分とは言えない」との意見が出された。アレルギー児への対応、不審者侵入時の対応などは訓練を行っているものの、緊急時にきちんと動けるかを不安に思っている職員が多く、訓練を増やしたりやり方を工夫したりするなどの方策が必要だと思われる。
- 保育中にPTA活動を行っていることが多いために担任は関わりにくいところがある。もう少し担任も係の委員会の保護者と関わっていく必要があったという反省が見られた。また、教職員も、「もっと開かれたPTAにしていく必要がある」と感じている。

◆本園の保育

	A	B	C	D	無回答
園は園児が主体的に行動できるような環境を構成していますか。	10(77%)	3(23%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
教職員は教育課題(友達のかかわり・生活習慣・規範意識)について意識して援助や指導を行っていますか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
教職員は幼児一人一人を理解し、その子にふさわしい援助や指導を行っていますか。	10(77%)	3(23%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
教職員は「うごく」子どもを育む保育をしていますか。	9(69%)	4(31%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
教職員は「かんじる」子どもを育む保育をしていますか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
教職員は「かんがえる」子どもを育む保育をしていますか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は気になる子への支援を適切に行っていますか。	8(61%)	5(39%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は幼児の保健に関して家庭や医療機関と連携ができていますか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は日常の健康観察や疾病予防の取り組み・健康診断に関して適切に実施していますか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は園便り・学級便り・保護者会・ホームページ・降園時の連絡などで、園の様子をわかりやすく伝えていきますか。	10(77%)	3(23%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)

- 日々努力をしていることを挙げながらも、「教育目標に対して、もっと迫れる保育をするようにしたい」と厳しい自己評価をする教員も多かった。配慮が必要な子に対しては、カウンセラーと連携することの良さがあげられていた。
- 保健関係は養護教諭が丁寧に見てくれている、特にアレルギーの子に対して担任との連携対応ができることによさを指摘する教員もいた。

◆子育て支援

	A	B	C	D	無回答
園は公開講座・おしゃべり広場・保育参加などを通して子育てに関する相談や支援を行っていますか。	10(77%)	3(23%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は保護者から寄せられた意見・要望の対応や、子育てに関する相談や支援を行っていますか。	9(69%)	4(31%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)

- 「園内だけでなく、地域にも行っていく必要がある」という意見が出てきた。これはこの後の項目の国立大学附属園の社会的使命とも関わっている。

◆国立大学教員養成系学部附属学校園としての社会的使命の達成

	A	B	C	D	無回答
園は国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命(教育実習・公開研究会等)をもっていますが、有益な使命を果たしていると思いますか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は大学・各附属校との連携研究を通じて幼児教育の先進的研究を行っていると思いますか。	10(77%)	3(23%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は幼稚園教員養成課程学生等の教育実習、研究協力、授業協力を適切に行っていると思いますか。	13(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は公開研究会、他園や教育委員会への協力などを通して地域に貢献していると思いますか。	8(61%)	4(31%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)
研究を通して自己の指導力が高められたと思いますか。	7(54%)	5.5(42%)	0.5(4%)	0(0%)	0(0%)
大学と連携することが幼稚園の運営や保育に生かされていると思いますか	9(69%)	4(31%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)

- 「対話」をテーマにしたことは、保護者とも共有しやすく、年間を通して保育の中で意識できてよかった。
- 「いろいろな先生方との出会いは保育の幅を広げることにつながるのよかった」という肯定的な意見が多かった。さらに「なかなか忙しくて連携も難しいところがあるが、総合大学であるメリットを生かして、いろいろなところと連携できるともっと可能性が広がるのではないか」ということがあげられた。

2.学校評価アンケートにもとづく自己評価

◆園の運営及び園務の遂行

- 教育目標や園の方針は、折に触れて話しているが、今後も具体的な子どもの姿が分かるような形で伝えていくようにする。
- 「子どもたちだけでどんぐり文庫に行って利用できるシステムがあると良いと思う」という指摘があったが、園としても年長児にそのような機会があれば良いと思っていた。図書委員会に協力してもらい、来年度から週1回、年長が自分で選んだ本を借りられる日を設定したい。
- 建物や設備の老朽化に関しては、毎年指摘が多い。今年度、委任経理金で5歳児棟と集会室をつなぐ通路、4歳児棟から5歳児棟につなぐ通路にテント地の屋根をつけたが、これについては高評価だった。来年度は、学部を通して大学の施設課に集会室のトイレの改修、園庭の排水設備、4・5歳児の保育室の天井の修繕を要望している。
- 2月20日に「園庭わくわくプロジェクト(第1弾：どんぐり山大作戦)」を行い、どんぐり山を保護者、子どもたち、保育者、工学部のデザイン科の先生と学生、スーパーバイザーと一緒に作った。来年度も、子どもの発達を考えながら、より魅力的な園庭になるように園庭の改修を行う。
- すのこやビールケースは安全点検の際にきちんとチェックをするようにしている。また、使用する際に、職員も気をつけるのと同時に、子どもたち自身の安全感覚を育てることも大切であることから、子どもたちも自分たちで気をつけられるようにしている。「基地を作る」「自分たちで遊具を作る」など大事な遊具になっているので、十分に気をつけて使用していきたい。
- 警報が出た際の一斉配信については、そのたびに配信する方が、保護者は安心できると思うが、警報が出ている中、職員も必ず7:30に間に合うように出勤できるとは限らないため、「7:00の時点で警報が出ていたら休園」であることを原則とし、可能な場合に限り、幼稚園から一斉配信をするようにする。
- 登降園時の不審者情報についてはなるべく早く情報を得るとともに、保護者に気をつけてほしいときは一斉配信で知らせるようにしたい。
- 「園内に不審者が侵入した場合、園芸用の棒では心許ない」という旨のご意見があった。急な場合、とりあえず様々なところにおいておけるもの、相手との距離をとれるもの、また、相手にとられてしまい逆に攻撃された場合でも危なくないものという観点から、警察が来るまでの6分間を稼ぐということで、園芸用の棒を置いてある。今回「催涙スプレーが良いのではないか」という意見もあったので用意しておくようにする。
- PTA総会はなるべく参加するというのが基本。「時間が長すぎる」という意見もあったので、総会資料の中、目を通してもらえばいいところは読み上げを省略するなど時間短縮に努めたいと考えている。

◆本園の保育について

- 今年度は「対話的な学び」ということをサブテーマに研究を進め、保育もその観点から見直していることから、本園の取り組みを理解して、高く評価して下さった保護者が多かった。
- 歯みがき指導に関しては、水道栓の数が少なく、水道のない保育室等で歯みがきをすることになると互いにぶつかって転び歯ブラシで喉を突く危険がある。安全を考慮して、歯みがきのかわりに、ぶくぶくうがいを実施している。
- 身長測定については、行事や保育時間中の遊びの時間を確保するため、毎回一斉に身長を測ることが出来ないため、希望者は、保健室で個別に測定する。
- ぬいぐるみ病院については、今年度も降園～園庭開放の限られた時間の中では年中・年少のみの実施で精一杯になってしまったので、希望者は亥鼻祭で参加してもらうようにする。
- 感染症者についての情報発信は、限られたクラス数の中で公表すると個人が特定できてしまうため、全体での人数のみの掲示としている。感染症の流行が懸念される時は、担任が欠席者の状況をクラスの保護者に連絡する。
- 急病のお迎えの際の自家用車使用は許可することを職員間で共通理解した。

◆子育て支援について

- 「HPの更新をもっとしてほしい」という意見があったが、教職員は他の業務もあるため、できる範囲で更新している。写真は遠目のもの、顔がはっきりと写っていないものを選んで使っているが、どうしても顔がはっきり写っているものを使用したいときには許可をもらっている。
- 年長の2学期末に個人面談を望む意見があったが、2学期半ばに進路面接をしているので、十分だと感じている保護者もいる。面談期間以外でも、気になることがあれば対応する。
- 保育中の写真は研究用に撮影しているので販売できない。
- 年長の1回目のおしゃべり広場は、午後に行っていたが、小学生のお子さんがあると参加しにくい等の意見があったので、来年度は午前中に行いたい。
- 「下の子を連れての保育参加ができないか」という意見があったが、その日は先生として参加してもらうため、下の子がいると主旨が変わってくること、下の子の安全面の心配、下の子に気を取られる園児も出てくるため保育の流れが大きく変わってしまうことが考えられる。保育参加が可能になる時期まで待ってもらるか、預けして参加してもらう。
- 厚生委員会主催の公開講座は、これまで年3回行ってきました。今年度の参加者が毎回50名程度、回数が多いと負担だという意見もあったため、平成30年度は2回にする。今年度から全附連の研修会を会員全員に知らせたが、このように研修の情報を発信していくようにする。
- 写真の購入は、ネットでも見られるようにし園を通さず購入できるようにする。希望者は、今まで通り、幼稚園でも写真が見られるようにする。

◆国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命について

- 社会的使命についてご理解いただいている保護者が多い。「研究会を平日にすれば園児の欠席が少なくすすむのではないか」という意見をもらったが、参加者が平日に休みを取って研究会に出席するのは難しい時世になっているため、土曜日に開催せざるを得ない。
- 大学の先生方の専門性を生かして、公開講座で話してもらったり、遊具の研究を一緒に行ったりということもできた。今後も双方に得ることがあるような連携を考えていきたい。